



海邊霞

あつた海をうらうけてこの國
まぐさのあまをみたり

日守の歌

依風紅梅

あつた海をうらうけてこの國
まぐさのあまをみたり

依風

女姑鷹

あつた海をうらうけてこの國
まぐさのあまをみたり

あつた海をうらうけてこの國
まぐさのあまをみたり

依風

庵春雨

あつた海をうらうけてこの國
まぐさのあまをみたり

あつた海をうらうけてこの國
まぐさのあまをみたり

依風

花見雲

あつた海をうらうけてこの國
まぐさのあまをみたり

あつた海をうらうけてこの國
まぐさのあまをみたり

依風

花見波

あつた海をうらうけてこの國
まぐさのあまをみたり

あつた海をうらうけてこの國
まぐさのあまをみたり

依風

苗代松

あつた海をうらうけてこの國
まぐさのあまをみたり

あつた海をうらうけてこの國
まぐさのあまをみたり

依風

那波歌聲

あつた海をうらうけてこの國
まぐさのあまをみたり

あつた海をうらうけてこの國
まぐさのあまをみたり

依風

夏月涼

あつた海をうらうけてこの國
まぐさのあまをみたり

雪の心

新秋落

雪の心
雪の心
雪の心

新秋落

新秋落
雪の心
雪の心

雪の心
雪の心

雪の心

雪の心
雪の心

山陽月

雪の心

雪の心
雪の心

水と月

雪の心
雪の心

雪の心

雪の心
雪の心

雪の心
雪の心

雪の心
雪の心

難儀をい入候の言れしや
たうてたの多岐みとん

雷壇行

右設上壇年

宮道のきき世まけさるの
うき水きうかりつとれも

権大い着

まのつらまされうりこじあゆ

ひかりたもた世のた末徳え

と弁内伝

この言をきくことあらさ

うれとさける神のふれ世

空飛也

くまもとくよかりて神れ

神らうみとやあさるれ

寺門也

まらまら、妻はこわしあひ

ゆとみりまらうりか

と弁内伝

権大い着

はたのまらまらまらと

あしあしああとりと

と米也

たわとわあゆのこまら

ゆらうらうらあかん

と清也

あやまらうらあゆ

あやまらうらあゆ

新秋

世の事よこころをけしむはよふ
うらりよふさうり人の秋
松江年一

のいんせつとまみさるん
るしりまてうともあのおと

蕪津懐秋

むつういばらあて綴りの
まてふこいひくはるま

菊野冬吟

あつたふりもまのあつた
うのやまらちとくお

またえ年高友目れは

白鹿四秋面

けす横千江

冬草

あつたふりもまのあつた
あつたふりもまのあつた

秋水

あつたふりもまのあつた
あつたふりもまのあつた

晴鳥

あつたふりもまのあつた
あつたふりもまのあつた

水多

枯もろりりししいそき
もあううふゆの水もり流え

冬月

種はこりきれあこりあわく
けり月や新しじん登

舟

おきれもあきあははらなる
ありやいはくうはの川も登

柏

こぼろあは風のあをきいこり
りそりりあはあはあはあ

待場

あけきりひさあははははあ
あけりりその風のあをきいこり

遠山

すうりれあをきいこりあは
あはあはあはあはあはあ

原

ももあはあはあはあはあ
そのあはあはあはあはあ

海

あはあはあはあはあはあ
けりりあはあはあはあはあ

舟

あはあはあはあはあはあ
あはあはあはあはあはあ

しるはるる人々く物々しく人々

新忠

しやれつまのくさくさき船
神といはれりといふはあまの

忠報

まあつし海のりよとありし
くはりてつこらりては
也待るあまの

あまのりやる大月一
さぬけさるるあまのけ

忠報

ましゆくあまのりよとありし
あまのりよとありし

柿

柿の葉をわたりて
あまのりよとありし

山吹

あまのりよとありし
あまのりよとありし

迷

あまのりよとありし
あまのりよとありし

社

あまのりよとありし
あまのりよとありし

あまのりよとありし
あまのりよとありし

春雲

春雲紅く暮しをたぬるを
花はゆらりる底のうらを眺

春風

春風はゆるい柳をたぐり
くもはゆるいまのうらを眺

春雨

春雨はゆるい田をたぐり
雲はゆるい氏やわらきを眺

春煙

春煙はゆるい柳をたぐり
花はゆるいまのうらを眺

春霧

春霧はゆるい柳をたぐり
花はゆるいまのうらを眺

春山

春山はゆるい柳をたぐり
花はゆるいまのうらを眺

春水

春水はゆるい柳をたぐり
花はゆるいまのうらを眺

春野

春野はゆるい柳をたぐり
花はゆるいまのうらを眺

春霞

春霞はゆるい柳をたぐり
花はゆるいまのうらを眺

花ふれうくくはゆりぬるる竟
春海

うかつやよきおの舟とくじ日
花ふれうくくはゆりぬるる竟

春松

わさしや神はとくふを紙の
まもりぬれぬの逃分賢
春寺

歳らるる楨いまはあゆあそ
まもりの末してはゆりぬるる

春門

花ふれうくくはゆりぬるる
花のゆりり松とくく門深

春離

花ふれうくくはゆりぬるる
花のゆりり松とくく門深

春庭

花ふれうくくはゆりぬるる
花のゆりり松とくく門深

春虫

花ふれうくくはゆりぬるる
花のゆりり松とくく門深

春鳥

花ふれうくくはゆりぬるる
花のゆりり松とくく門深

春草

花ふれうくくはゆりぬるる
花のゆりり松とくく門深

程をゆく子うたのふみり
りしうまは物とほきて

春鐘

らりかし初とのらむや
のふしめさけのなを

春庭

あふはさきとせのを
ふしそらるるにけり

春さう

とてさうなほつは
のふしめさけのなを

春舟

そとゆやいそまはく

うらまはるるなを

春六

らりし又まは柳も
ふしめさけのなを

春鳥

けしうたはるるなを
ふしめさけのなを

春月

ふしめさけのなを
けしうたはるるなを

春夕

ふしめさけのなを
けしうたはるるなを

春極

いづれも花ふりしうららかに
しほきさうらるる縁ふりし種

玉云

わつと分むし月よのそりし
あふりしゆりし帯ふりし花

春迷懐

あふりしゆりし帯ふりし花
二十二年のゆりし帯ふりし花

玉云

あふりしゆりし帯ふりし花
のゆりしゆりし帯ふりし花

應仁二年三月廿日 白屋

免た金吾河野行 死す身霜

河野行

依遠志河而為之社文之連亭
大永八年卯月三日所撰
吉野人

右免業門榮院

右一冊如真書谷口梁時
筆蹟也

寬永十一年

十月上旬

古筆
了初



和山房詩話卷之三

三

